

KOSHIN

保証書

持込修理

レシートまたは
販売証明書と共に
保管してください

この保証書は本書に明記した期間、条件のもとにおいて、下記記載内容で無料修理をお約束するものです。
保証期間経過後の修理等についてご不明な点は、下記の「工進修理受付窓口」へご相談ください。

保証期間内に取扱説明書、本体貼付ラベル等の注意書きにしたがった正常なご使用状態で故障した場合には、本記載内容に基づき無料修理いたします。商品と本書をお持ちいただき下記の「工進修理受付窓口」へ修理をご依頼ください。

| | | | |
|------|---|---------|--------|
| 機種 | エンジン動噴 ガーデンスプレーヤー ES-10P/10PDX/15PDX/20PDX | *お買い上げ日 | 年 月 日 |
| 保証期間 | お買い上げより1年間 | | |
| お客様 | *お名前 | * 購入店 | 〒 住所 |
| | *ご住所 | | 〒 店名 |
| | 電話 () | | 電話 () |

※に記入のない場合は無効になりますので必ずご確認ください。

株式会社 **工進**

京都府長岡京市神足上八ノ坪 12

1. 保証期間内でも次のような場合は有料修理となります。

- 〈イ〉 使用上の誤り、改造、不当な修理、工進指定の純正パーツ以外を使用したことによる故障または損傷。
- 〈ロ〉 お買い上げ後の落下、運送等による故障または損傷。
- 〈ハ〉 火災・地震・水害・落雷・その他天災地変、公害、指定外の使用電源（電圧、周波数）等による故障または損傷。
- 〈ニ〉 家庭用以外（業務用など）に使用された場合の故障または損傷。
- 〈ホ〉 本書のご提示がない場合。
- 〈ヘ〉 本書にお買い上げ年月日、お客様名、購入店名の記入のない場合、あるいは字句を書き換えられた場合。
- 〈ト〉 付属品、消耗品は有料修理となります。

〈チ〉 車両、船舶などに搭載された場合に生ずる故障または損傷。

- 2. 本書は再発行いたしませんので大切に保管してください。
- 3. この商品は持込修理に限らせていただきます。出張修理はいたしません。
- 4. 本書は日本国内についてのみ有効です。
- 5. 保証期間経過後の修理などは、下記の「工進修理受付窓口」へご相談ください。
- 6. 本機が使用できなかったことによる不便さおよび損失など（電話代、レンタカー代、宿泊代、交通費、休業補償、営業損失など）は補償いたしかねます。

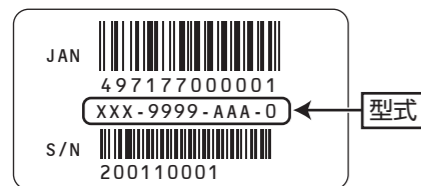
お問い合わせ

お問い合わせの際は、

- 型式(下図参照)、
- お買い上げ年月日、
- 故障状況 など

をお知らせください。

※本体または梱包箱に貼付しています。
一部ラベルのない商品もございます。



株式会社 **工進**

〒617-8511
京都府長岡京市神足上八ノ坪12
http://www.koshin-ltd.co.jp

製品・パーツの販売についてのお問い合わせは

購入店またはお近くの弊社製品お取扱店にご相談ください。

製品の修理に関するお問い合わせは……工進修理受付窓口へ

電話 ☎ **0120-987-386** 平日: 9:00~17:00
会社休業日・土日祝祭日を除く。受付時間に変更がある場合は、弊社ホームページにてご案内します。

ダイレクト修理 ※北海道・沖縄を除く

- ①フリーダイヤルへ電話
- ②修理品を受け取り
- ③センターで修理
- ④ご自宅までお届け
- ⑤お支払いはクレジットカードまたは代引き

製品に関するお問い合わせは……お客様相談窓口へ

Eメール pump@koshin-ltd.co.jp Eメール▶

電話 ☎ **0120-075-540** 平日: 9:00~17:00
会社休業日・土日祝祭日を除く。受付時間に変更がある場合は、弊社ホームページにてご案内します。



ES-15PDX

●このたびは、当社製品ガーデンスプレーヤーをお買い上げ頂き誠に有難うございます。本製品は、園芸用・農業用薬剤の散布または散水を目的とした製品です。

●この取扱説明書には、正しく安全にご使用いただくための注意事項が記載されています。ご使用になる前に必ず本書をお読みにになり、使用方法をご理解ください。(誤った使用方法は、事故・ケガの原因となります。)

●取扱説明書は、何時でも見られるように大切に保管ください。

※保証書(裏表紙)を大切に保管ください

仕様変更などにより、本機のイラストや内容が一部実機と異なる場合がありますがご了承ください。

KOSHIN

ガーデンスプレーヤー

エンジン動噴

取扱説明書

ES-10P / 10PDX

ES-15PDX / 20PDX

目次

- もっと安全・安心に…………… 2
- 安全上の注意…………… 4
- 各部の名称と仕様…………… 6
- ご使用になる前に…………… 7
- 使用方法…………… 12
- 使用後の注意…………… 16
- 保守・点検…………… 17
- 故障と処置…………… 18
- パーツのご注文は…………… 22
- よくある質問と回答…………… 23
- 保証書…………… 24

株式会社 **工進**

21-03 045377304

(飛散)

もっと安全・安心に

ドリフトの少ない農薬散布を!

食品衛生法が改正され、農薬残留基準にポジティブリスト制度が導入されました。今まで残留農薬基準値が決められていなかった農薬に、0.01ppmという一律の厳しい基準が設けられ、この定められた基準を超えて農薬が残留する食品は、出荷停止・販売禁止・回収等の対応が求められるようになりました。

農薬の適正使用はもちろんのこと、散布する薬剤が周りの圃場にドリフト(飛散)しないよう、これまで以上に気をつける必要があるとともに、地域一体となった取り組みが大切となります。

ポジティブリスト制度とは

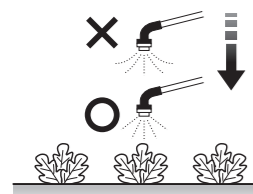
食品衛生法に基づく残留基準値が設定されていない農薬等が一定量以上含まれる食品の販売等を原則として禁止する制度です。一定量とは「人の健康を損なう恐れのない量として厚生労働大臣が定める量」として、原則0.01ppmとなっています。(いわゆる一律基準)平成18年5月29日より施行
※詳しくは厚生労働省のHP等をご参照ください。

散布しようとする作物以外に農薬がドリフト(飛散)しないよう散布時には細心の注意をはらいましょう。



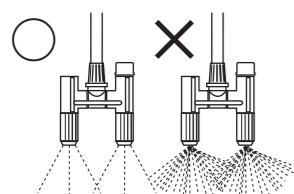
風の弱い時に風向きに注意して散布しましょう。

農薬ドリフトの最大要因は風です。風のない日や風の弱い時に散布しましょう。散布中は常に風の状況を把握して注意することが必要です。



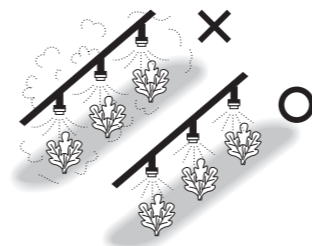
方向や位置に注意して散布しましょう。

出来るだけ作物の近くから作物だけに散布するよう心掛けます。特に圃場の端部では外側から内側に向けて散布する等、特に注意が必要です。



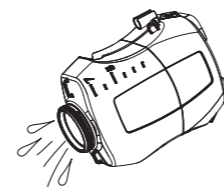
適正なノズル・圧力で散布しましょう。

細かい散布粒子のノズルを使用するほど、また 散布圧力を高めるほどドリフトしやすくなります。必要以上の圧力で散布しないよう注意が必要です。又、ドリフトの少ないノズルに取り替えることも効果的です。



適正な量を散布しましょう。

必要最小限の量と区域で散布を行い、無駄な散布をしないように心掛けます。散布量が多くなるとドリフトする割合も大きくなります。



薬剤タンクやホースは洗い残しがないよう十分に洗浄を行い、洗浄水は適切に処分しましょう。

薬剤タンクやホースに使用した農薬が残っていると、次の散布時に作物に薬害が生じたり、収穫物に農薬が残留してしまう等、思わぬ事態に繋がる恐れがあります。使用後は清水を2~3分噴霧し、ポンプ・ホース・ノズル内の薬剤を洗い流してください。

地域一体となった取り組みが大切です。



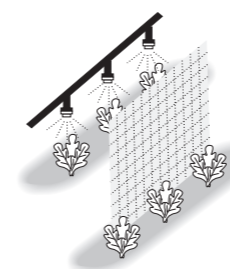
周りの作物にも登録のある農薬を使用しましょう。

より多くの作物に適用があり、収穫近くまで使える様な農薬を選定する事で、飛散した場合のリスクを低減する事が出来ます。



決められた農薬の使用法を守りましょう。

使用前には農薬の使用法を確認し、散布出来る作物や使用量、濃度、使用時期、総使用回数を必ず守って使いましょう。また、圃場ごとに使用した農薬や作業内容を必ず記録しておきましょう。



境界区域では農薬散布を控え、周りの作物をネットやシートなどで遮断したり一時的に覆いましょう。

周りの圃場で収穫直前の作物がある場合は、散布日や収穫日を変更する等の調整をしましょう。

次の場合は特に注意が必要です。

- ◇圃場同士の距離が近い時
- ◇隣の食物作物の収穫が近づいてきた時
- ◇飛散が起こりやすい散布方法・条件の時






農薬散布することを周りの生産者に伝え、日頃からコミュニケーションをとるなど、地域の農業従事者同士の連絡を密にしておくことが重要です。

※イラストは全てイメージです。

※ご使用前に、この「安全上の注意」をよくお読みの上正しくお使いください。ここに示した注意事項は製品を正しくお使い頂き、あなたや他の人々への危険や損害を未然に防止するためのものです。また、注意事項は次のように区分しています。





■表示内容を無視して、誤った使い方をした時に生じる危険や損害の程度を次の表示で「危険」「警告」「注意」に区分し、説明しています。

いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。






| | |
|--|--|
|  危険 | 人が死亡または、重傷などを負う可能性が高いと考えられる内容です。 |
|  警告 | 人が死亡または、重傷などを負う可能性が想定される内容です。 |
|  注意 | 人が損傷を負う可能性及び物的損傷の発生が想定される内容です。 |
|  この記号はしてはいけない「禁止」の内容です。 |  この記号は必ず守っていただく「実行」の内容です。 |

■その他の表示：要点…正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。仕様変更などにより、本機のイラストや内容が一部実機と異なる場合がありますのでご了承ください。保証書はよくお読みいただき、裏面のお買いあげ日、販売店の記入をご確認ください。



 **危険**

| | |
|---|---|
|  必ず守る | 燃料補給時など燃料取扱時には、火気厳禁。燃料に引火、火災の危険があります。 |
|  禁止 | 室内およびハウス内等換気の悪い所では運転しないでください。エンジンの排気ガス中には、有害な物質が含まれており、ガス中毒を起こす危険があります。 |
|  禁止 | くぼ地の脇などで運転される場合は、くぼ地に入らないでください。エンジンの排気ガスが井戸やくぼ地に流れ込み、ガス中毒を起こす危険があります。 |
|  禁止 | 本機運転中はガソリンやスプレーなど可燃性の物質を本機の近くで使用、放置しないでください。引火し火災の原因となります。 |

 **警告**

| | |
|---|---|
|  必ず守る | 過労、病気、酒気をおびた人、妊娠している人、その他の理由で正常な散布作業が出来ない人は散布作業を行わないでください。少しでも体調が悪くなった時はすぐに医師の診断を受けてください。 |
|  必ず守る | 本体取扱説明書を理解していない人は、ポンプの操作を行わないでください。 |
|  禁止 | ポンプに幼児・子供が触れないよう、隔離措置をして安全な場所で運転してください。 |
|  禁止 | 運転中は本体に物がかぶせたり燃えやすい物を近づけないでください。発火や故障の原因となります。 |
|  必ず守る | 製品を背負わずに使用する場合は、マフラーからの排気の妨げにならない、かつ排気の吹き返しが無い、風通しの良い場所で使用してください。高温の排気ガスが製品の樹脂部分に悪影響を及ぼすおそれがあります。 |

 **注意**

| | |
|---|--|
|  禁止 | 熱くなっているマフラーやエンジン、ポンプ各部をさわらないでください。火傷の恐れがあります。 |
|  禁止 | 薬剤を使用する時は本機の取扱説明書に記載されている主要薬品適合一覧表を確認の上、使用してください。強酸性・強アルカリ性の液体、ベンジン・ガソリン等の可燃性の液体、溶剤等は絶対に使用しないでください。爆発する恐れがあります。ゴキブリ・ハエ・蚊等に用いる殺虫剤・防疫用薬品、下水・便所等に用いる消毒剤、畜産用薬品は絶対に使用しないでください。故障の原因になります。 |

 **注意**



| | |
|---|---|
|  禁止 | 空運転は1分以上しないでください。ポンプ破損の原因になります。 |
|  必ず守る | 動かなくなったり異常がある場合は事故防止の為、直ちにご使用を中断して、本取扱説明書裏表紙の製品の修理受付へお問い合わせください。そのまま使用するとケガの原因となります。 |
|  必ず守る | 園芸用・農業用薬剤の散布、または散水用途以外には使用しないでください。 |
|  必ず守る | 幼児や子供が触れない場所に保管してください。 |
|  必ず守る | ホースがマフラーに触れたり排気に当たったりしない様にしてください。熱によりホースが破損するおそれがあります。 |
|  必ず守る | 傾斜地で使用しないでください。燃料タンクキャップや気化器から燃料がこぼれ、火災の原因となります。 |
|  必ず守る | マフラー付近に障害物を置かないでください。火災や故障の原因となります。 |
|  必ず守る | 使用する薬剤については、薬剤の取扱説明書を十分にお読みの上、正しく使用してください。 |
|  必ず守る | 薬剤は有害です。幼児や子供が触れないように保管してください。また、保管方法については薬剤の取扱説明書に従ってください。 |
|  必ず守る | 薬剤が人体、家畜にかからない様に、また、川、池、沼などを汚染しない様に風向き周囲の状況を十分に確認の上、使用してください。 |
|  必ず守る | 安全の為、作業中は保護マスク、保護メガネ、保護衣、作業帽、不浸透性の手袋、作業靴を着用してください。 |
|  必ず守る | 作業終了後は器具や着衣類を全てよく洗い、作業後も入浴するか、手、足、顔等を石けんでよく洗い、うがいをしてください。ケガの原因となります。 |
|  必ず守る | 調合が適切でない薬液は、作物を傷めるだけでなく人体にも有害になる恐れがあります。薬液の調合の際は、薬品の使用上の注意をよく読み、正しく希釈してから使用してください。故障の原因になります。 |
|  必ず守る | 薬剤を変える時は、必ず前の液を完全に抜いてから、新しい液を入れてください。薬剤が混ざると、化学変化をおこす恐れがあり危険です。 |
|  必ず守る | 薬剤に被爆した時(誤って飲用した、皮膚に接触した等)は、薬剤の取扱説明書に従い、適切な処置を行うか、医師の診断を受けてください。 |
|  必ず守る | 散布器具や容器を洗浄した水、残った薬剤は河川や下水などに流さず、薬害のない方法で処理してください。 |
|  禁止 | 本体に水をかけないでください。故障の原因となります。 |
|  必ず守る | 修理技術者以外の方は、取説記載内容以外の分解や修理・改造は絶対に行わないでください。異常動作してけがをする恐れがあります。 |
|  禁止 | ノズルを絶対に人や動物に向けないでください。ケガの原因となります。 |

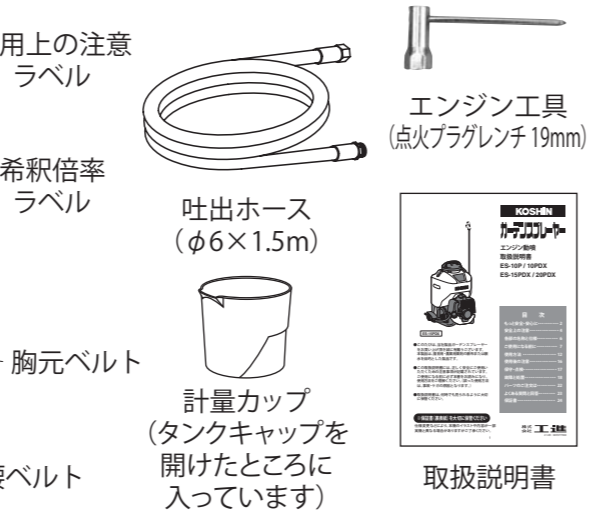
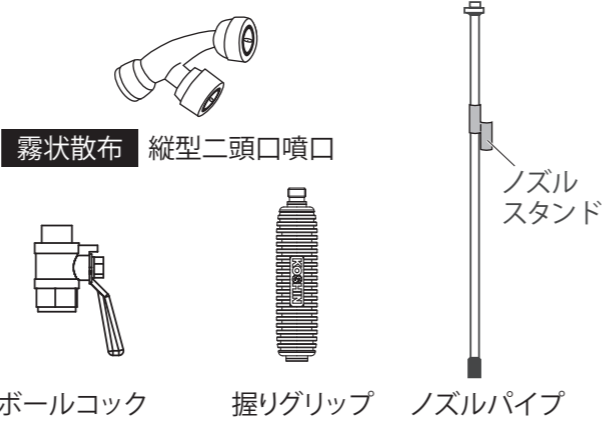
〈ラベルのメンテナンス〉製品には、銘板が貼付されています。銘板が見えにくくなった場合や、はがれた場合にはお買い上げの販売店に注文し、貼りかえてください。

各部の名称と仕様

開梱すると本体と次の様な部品が入っています。全て揃っているか確認してください。



| ES-10Pのみ | ES-10PDX/15PDX/20PDXのみ |
|---|---|
|  <p>泡状散布 泡状除草噴口</p> |  <p>泡状散布 カバー付泡状除草噴口</p> |



| 機種名 | ES-10P | ES-10PDX | ES-15PDX | ES-20PDX |
|----------|--|----------|----------|----------|
| タンク容量 | 10L | 15L | 15L | 20L |
| ポンプ | 一連差動ピストンポンプ | | | |
| 最高圧力 | 締め切り時: 3.0MPa (30kgf/cm ²) | | | |
| 最大吸水量 | 5.2L/分 | | | |
| 噴霧量 | 縦型二頭口(高圧時): 3.5L/分 (カバー付)泡状除草(除草時): 0.63L/分 | | | |
| エンジン名称 | KC22-D | | | |
| 形式 | 空冷2サイクルガソリンエンジン | | | |
| 始動方式 | リコイルスターター方式 | | | |
| 排気量 | 22.6cc | | | |
| 最大出力/回転数 | 0.5kW (0.67PS) / 6500rpm | | | |
| 燃料 | 2サイクル混合ガソリン(50:1) FC級以上 | | | |
| 燃料タンク容量 | 約0.5L | | | |
| オイル量 | — | | | |
| 点火プラグ | チャンピオン: RCJ6Y | | | |
| 燃料消費目安 | 約50分 | | | |
| 本体重量 | 6.9kg | 7.1kg | 7.1kg | 7.3kg |

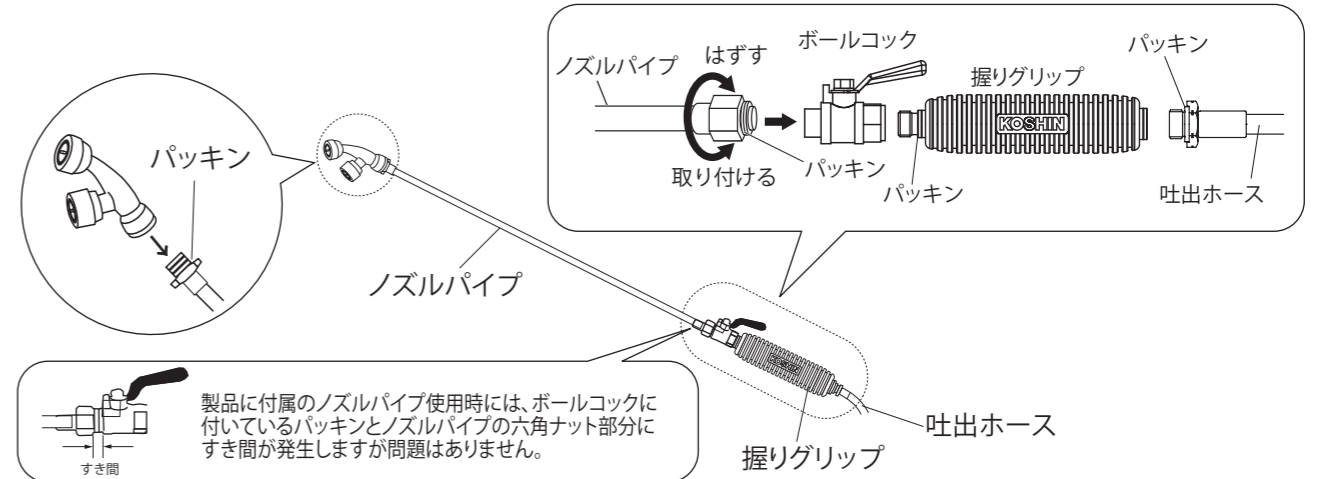
ご使用になる前に

1 確認事項

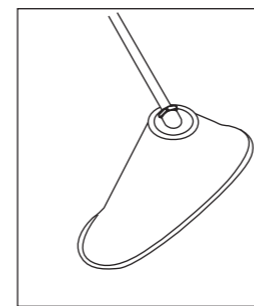
同梱されている部品が全て揃っているか確認してください。(6ページ 各部の名称と仕様参照)

2 組み立て

1. 握りグリップに吐出ホース、ボールコックを取り付け、ボールコックにノズルパイプを取り付けます。各接続部にパッキンが付いていることを確認してください。

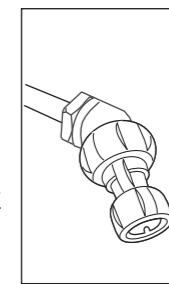


2. ノズルパイプの先端に、下記の噴口から必要なものを選んで取付けます。



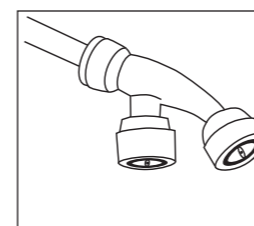
カバー付泡状除草噴口
(ES-10PDX/15PDX/20PDX)
泡状散布

- 少量・通常散布用
- 葉・茎から吸収させ、植物全体を枯らす 茎葉吸収移行型の除草剤に使用します。
- 風の影響を受けにくく、薬剤の飛散を防止できます。



泡状除草噴口
(ES-10Pのみ)
泡状散布

- 少量・通常散布用
- 葉・茎から吸収させ、植物全体を枯らす 茎葉吸収移行型の除草剤に使用します。



縦型二頭口噴口
霧状散布

- 通常噴霧散布用
- 薬剤を噴霧状態で均一に散布できます。

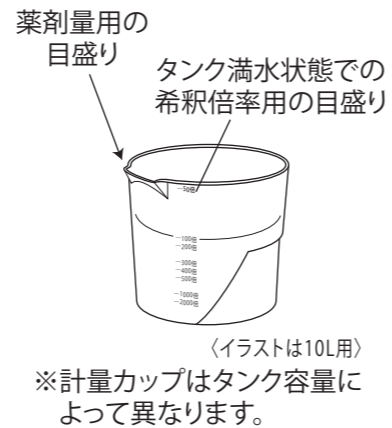
注意 各接続部にはパッキンが付いています。必ずパッキンがあることを確認してください。また、液漏れがないようにしっかりと締め付けてください。

注意 吐出ホースに亀裂、破損がないことを確認してください。

3 薬液について

1. 薬剤を希釈する

- タンクキャップを外し、ストレーナーの中に収納されています計量カップを取り出してください。
計量カップにはタンク満水状態での希釈倍率が表示されています。(薬剤の量も表示しています)
目的の希釈倍率まで薬剤を入れて希釈してください。



- 少量の薬液を作る時は、下記の希釈倍率早見表をご参照ください。

〈希釈倍率早見表〉

| 水 | 希 釈 倍 率 (ccまたはg) | | | | | | | |
|-----|------------------|-------|-------|------|--------|------|-------|-------|
| | 50倍 | 100倍 | 200倍 | 300倍 | 400倍 | 500倍 | 1000倍 | 2000倍 |
| 2L | 40cc | 20cc | 10cc | 7cc | 5cc | 4cc | 2cc | 1cc |
| 4L | 80cc | 40cc | 20cc | 13cc | 10cc | 8cc | 4cc | 2cc |
| 6L | 120cc | 60cc | 30cc | 20cc | 15cc | 12cc | 6cc | 3cc |
| 8L | 160cc | 80cc | 40cc | 27cc | 20cc | 16cc | 8cc | 4cc |
| 10L | 200cc | 100cc | 50cc | 33cc | 25cc | 20cc | 10cc | 5cc |
| 12L | 240cc | 120cc | 60cc | 40cc | 30cc | 24cc | 12cc | 6cc |
| 15L | 300cc | 150cc | 75cc | 50cc | 37.5cc | 30cc | 15cc | 7.5cc |
| 20L | 400cc | 200cc | 100cc | 67cc | 50cc | 40cc | 20cc | 10cc |

要点

薬剤の取扱説明書を十分にお読みの上、記載されている倍率に従い、薬剤を正しく希釈してください。

2. 主要薬品適合一覧表

| 乳剤(薬剤を水で薄めて使用) | 水和剤(粉末の薬を水で溶かして使用) |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ●殺虫剤 スミチオン乳剤 マラソン乳剤 ディブテレックス(DEP)乳剤 マシン油乳剤 ダイアジノン乳剤 DMTP乳剤 PAP乳剤 ●殺菌剤 ポリオキシシン乳剤 マイシン乳剤 サブロール乳剤 石灰硫黄合剤 ●除草剤 クサノンA乳液 ラウンドアップ パスタ | <ul style="list-style-type: none"> ●殺虫剤 オルトラン水和剤 ロプラール水和剤 モレスタン水和剤 DMTP水和剤 ●殺菌剤 ベンレート水和剤 ダイセン水和剤 ダコニール(TPN)水和剤 ●除草剤 クサノンS水和剤 シマジン水和剤 2,4-D |

ゴーゴーサン・トレファノサイドをご使用の場合

警告

ゴーゴーサン・トレファノサイド等一部の薬剤は使用方法を誤りますと、故障の原因となるばかりでなく、思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。正しい使用方法を必ず守ってください。

- ① 薬剤は薬剤メーカー指定の希釈倍率の範囲内で必ずご使用ください。
- ② 使用後は速やかに水洗いをしてください。
(薬液をタンクの中に入れてそのまま放置しないでください)
水洗いはタンクの中に清水を十分に入れ、噴霧をさせ、ホース・ポンプも十分水を通して、完全に洗浄するようにしてください。水洗いは2~3回繰り返して実施してください。

注意

一部の薬剤は正しい使用方法を守った場合でもタンク等を変色させたり、変形させることがあります。機能上は問題ありません。(万が一、少しでも異常を感じられた場合は、速やかに使用を中止し、本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご相談ください。)

3. バケツ等の容器に水、薬剤を入れ、十分に溶かしてください。
タンクに入れる時は必ず付属のストレーナーを通してください。

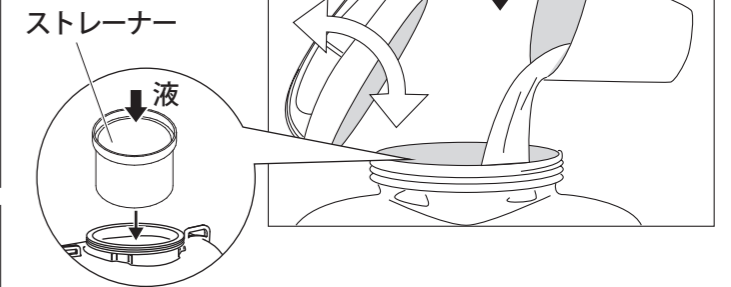
石灰硫黄合剤及び水和剤を使用した場合、
噴口やストレーナーに薬剤がつまり、霧の
状態が悪くなる場合があります。
薬剤はよく溶かしてからご使用ください。

注意

薬剤は有害ですから、取り扱いについては必ず薬剤メーカーの指導に従って充分注意を払ってください。体に付着したときはよく洗い流してください。

注意

水和剤、石灰硫黄合剤をご使用の際はバケツ等の容器でよく溶かしてご使用ください。
また、ご使用中に薬液が沈殿しないように良く攪拌してください。



【殺虫剤豆知識】

●接触剤

薬を害虫に触れさせて殺します。
市販薬剤の多くがこのタイプで食毒剤やガス剤の作用を合わせ持つものがあり、残効性が少なく害虫の発生の度に丁寧に散布します。

●浸透移行性剤

葉や根から吸収された薬の成分を害虫が摂取する事により殺します。薬の効果が20~30日間も続くために接触剤より散布回数が少なく済みます。

●誘殺剤

害虫を誘引し、薬を食べさせて殺します。害虫の種類によりいろいろな薬剤があります。

●展着剤(ダイン等)

薬剤を害虫や植物によく付着させ、風雨等で流失するのを防いで薬の効果を長持ちさせます。散布液をつくる時に必ず使いまししょう。

4. 薬の使い方

●同じまくなら早目散布

病害虫の発生初期に薬まきを。病状が進んだ後では、同じ薬まきでも大変な手間がかかります。

●説明書をよく読み、かけ過ぎに注意

散布量は葉先から薬液がしたたり落ちる直前ぐらいが効果的。散布液をつくる時は、説明書の希釈倍率を守って正しく作りましよう。

●風のない朝夕の涼しいときに散布

日中や西日の強い高湿時はさけ、薬液の流失を防ぐためにも、半日は雨の降らない日を選んでまきましよう。

●薬の上手なうすめ方

はじめ少量の水でよくかき混ぜてから残りの水を加えるとよく混ぜります。
また、展着剤(上記 殺虫剤豆知識参照)を使いまししょう。

●ムラなく葉の裏側へも

葉の裏側は病害虫の隠れ場所。幹、枝、茎にも発生しますので植物全体にむらなく薬をかけましよう。

●残った液はキキメなし

一度溶かした薬を後日使っても効果はありません。下水等に捨てずに植物にかけるか土に捨ててください。

5. 作業上の注意

●作業は防除用の服装で！

安全のため、農薬の付着や吸入を防ぐため、保護マスク、保護衣、頭から肩まで覆う事の出来る防水頭巾、ゴム手袋、ゴム長靴、ゴム前掛けを用意し、危険のない服装で作業してください。

●体調のよい時だけ作業を！

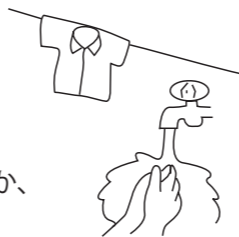
少しでも体調が悪くなった時は、すぐに医師の診断を受けてください。

●周囲の安全を確認！

風向きや周囲の安全を確認して作業をしてください。
川・池・沼等汚染しないよう、また、人・家畜に害のないようにし、作業者の体にもぜったい薬がかからぬようにしてください。

●すべて、よく洗う！

作業が終わりましたら器具や着衣類をすべてよく洗い、作業者もただちに入浴するか、または手・足・顔等を石けんでよく洗い、うがいをしてください。



4 ショルダーベルトの調節

①背負う前に、図のようにショルダーベルトのバックルを上を持ち上げ下のベルトを引くと、ベルトが長くなり背負い易くなります。

②タンクを背負ってから腰ベルトを装着し、長さを調節します。

③ショルダーベルトの端を後ななめ方向に引くと、製品を背負ったままベルトを短くできます。

④ショルダーベルトを長くする時は、バックルを持ち上げれば自然にベルトが伸びます。

⑤胸元ベルトを装着し、長さを調節します。

要点

急激な操作は避けてください。急にベルトが長くなり危険です。

5 燃料(およびエンジンオイル)

●燃料は **混合比 50:1 の2サイクルオイル混合ガソリン (FC級以上)** を使用してください。

- ・燃料タンク容量:6ページ参照
- ・混合ガソリン、下記の2サイクル専用オイルは農機店、ホームセンター、ガソリンスタンドなどでご購入ください。

●ご自分で燃料を混合される場合は下記をお守りください。

・混合比 = **50 (ガソリン):1 (50:1用の2サイクル専用オイル FC級以上)**

・希釈早見表

| 混合比 | ガソリン | 1L | 2L | 3L | 4L | 5L |
|-----------|-------------------------------|------|------|------|------|-------|
| 50:1 (2%) | 2サイクル専用オイル 50:1用 FC級以上 | 20ml | 40ml | 60ml | 80ml | 100ml |

⚠ 注意 2サイクル専用オイルは、JASO規格のFC級または、FD級を使用してください。FB級を使用するとエンジン焼付の原因となります。

⚠ 注意 25:1等、指定よりも濃い混合ガソリンを使用した場合には排気ガスの白煙やマフラーからオイル垂れが多くなりますので、指定以外の混合ガソリンは使用しないでください。

⚠ 注意 30日以上経過した混合ガソリンは使用しないでください。

要点 燃料を入れる前に、十分に攪拌してください。

●燃料補充

1. 燃料タンクの蓋は清潔に保ってください。
2. 蓋を外す際は、ゆっくりと外し、キャップ周辺から燃料が漏れない様に注意してください。
3. 燃料がこぼれない様に注意して補給してください。
4. 蓋を取り付ける際、ゴミや異物が付着していないか確認し、付着している場合には清掃してください。
5. 燃料がこぼれた時には綺麗に拭き取ってください。

⚠ 危険 燃料は非常に引火しやすいため、取り扱いを誤ると火災事故の原因となります。燃料の混合や給油時は必ず火気を遠ざけ、タバコは吸わないでください。

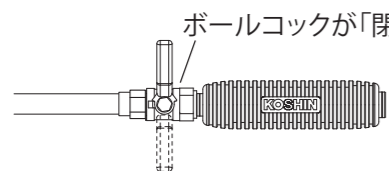
⚠ 危険 燃料がこぼれたら、きれいに拭き取ってから始動してください。

⚠ 危険 燃料補給の際は、必ずエンジンを停止して、十分に冷却した後行ってください。

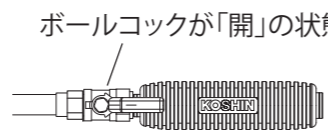
⚠ 注意 30日以上経過した燃料はご使用にならないでください。エンジンを30日以上使用しない時は、燃料の変質により始動不良や運転不調の原因となりますので、ご使用後は必ず燃料を抜いてください。

1 薬液を入れる

1. ボールコックが「閉」になっていることを確認します。



ボールコックが「閉」の状態

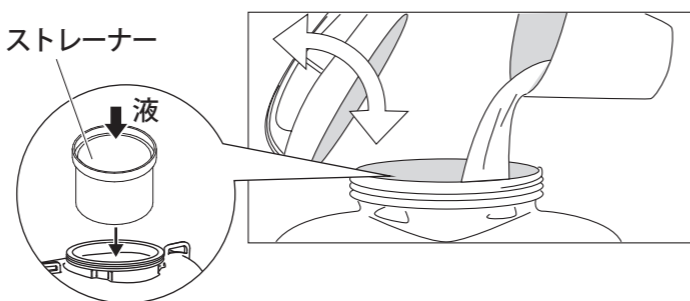


ボールコックが「開」の状態

注意 ボールコックを「開」の状態のままにして、タンクに薬液を入れようとすると流れ出て来てしまいます。

2. タンクキャップをゆるめて、はずします。

3. バケツ等の容器に水、薬剤を入れ、十分に溶かしてください。
 - 薬剤タンクに目一杯入れますと、傾いた時にこぼれることがありますのでご注意ください。
 - タンクに入れる時は必ず付属のストレーナーを通してください。
 - 薬剤の取扱いについて、詳しくは8～9ページをご確認ください。



ストレーナー

4. 薬液を入れ終われば、タンクキャップをしっかりと締めてください。

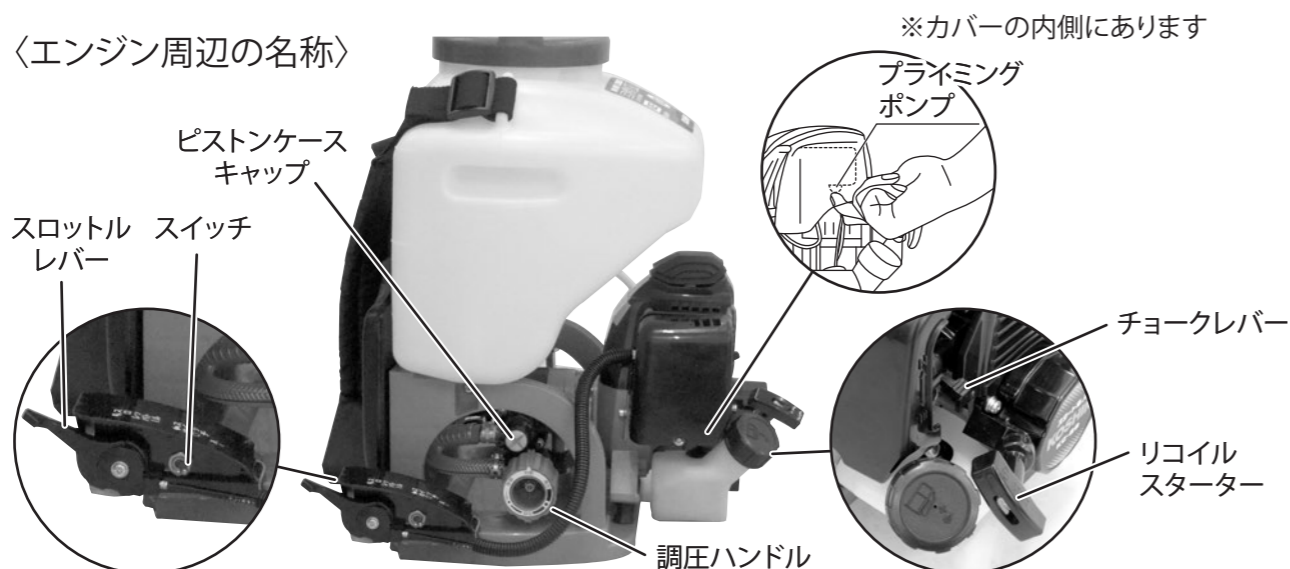
2 エンジンの始動

危険 排気ガスは人体に有害です。換気の悪い場所での運転はしないでください。

注意 エンジンを始動する時は、必ずタンクに水または薬剤を入れてください。1分間以上の空回転を行うとポンプ故障の原因となります。初めて始動するときは薬剤の調合前に清水で運転して機械の調子確かめておいてください。

注意 吸水すると噴口から薬液が噴霧されます。人や物などにかからないように注意してください。

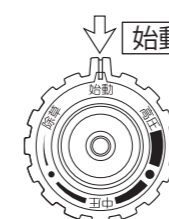
〈エンジン周辺の名称〉



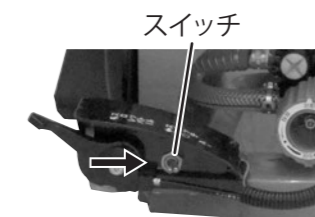
エンジンが冷えているとき

エンジンが温まっているとき、または夏期

1. 調圧ハンドルを「始動」の位置にし、スイッチを「入」にします。



始動



スイッチ

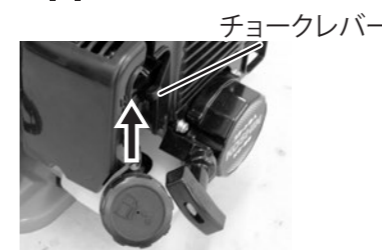
2. プライミング操作を行います。ガソリンを吸い上げるために、プライミングポンプをくりかえし約10回押します。



プライミングポンプ

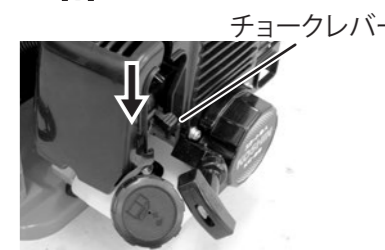
※カバーの内側にあります

3. チョークレバーを閉 N にします。



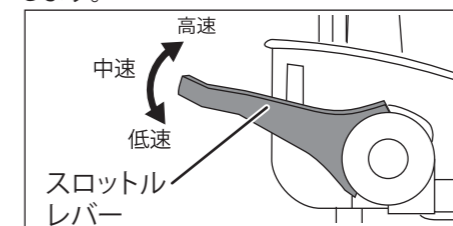
チョークレバー

3. チョークレバーが開 IIII であることを確認します。



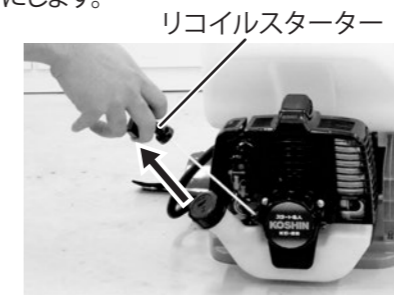
チョークレバー

4. スロットルレバーを中速位置にします。



スロットルレバー

5. 本機をしっかり押さえ、4回程度リコイルスターターを引いて始動させます。始動後はチョークレバーをゆっくりと開 IIII にします。



リコイルスターター

※このリコイルは、ゆっくり引いても始動します。強く引きすぎるとひもが切れたり故障の原因となりますので強く引きすぎないでください。

要点

4回程度リコイルスターターを引いても始動しない場合は、チョークを「開 IIII」にしてからリコイルスターターを6回程度引いて始動します。

要点

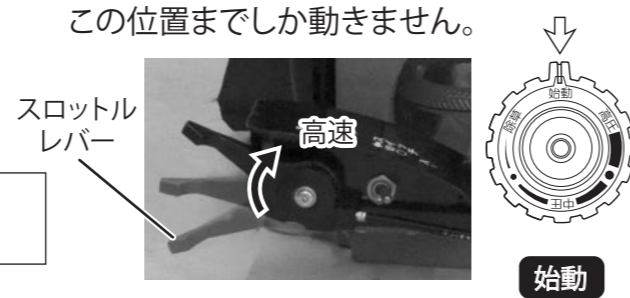
・うまく運転しない場合は、チョークレバー・スロットルレバーの位置を変えて再度繰り返してください。
 ・エンジンの性能を十分に発揮してご使用頂くために、エンジンが冷えている状態からの始動後は十分な暖機運転を行って頂き、急なスロットル操作は行わないようにしてください。

※それでも始動しない場合「故障と処置」(18ページ)を参照してください。

3 運転

注意 エンジンがかかっている間、薬液または水が常にタンクの中にあることを確認してください。1分以上の空運転を行うとポンプ故障の原因となります。

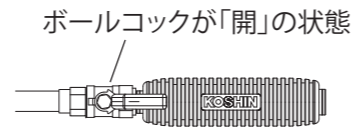
1. エンジンを始動し、スロットルレバーを高速側に、調圧ハンドルを「始動」にします。



注意 無理にレバーを動かさないでください。HIGH(高)の位置までは動きません。

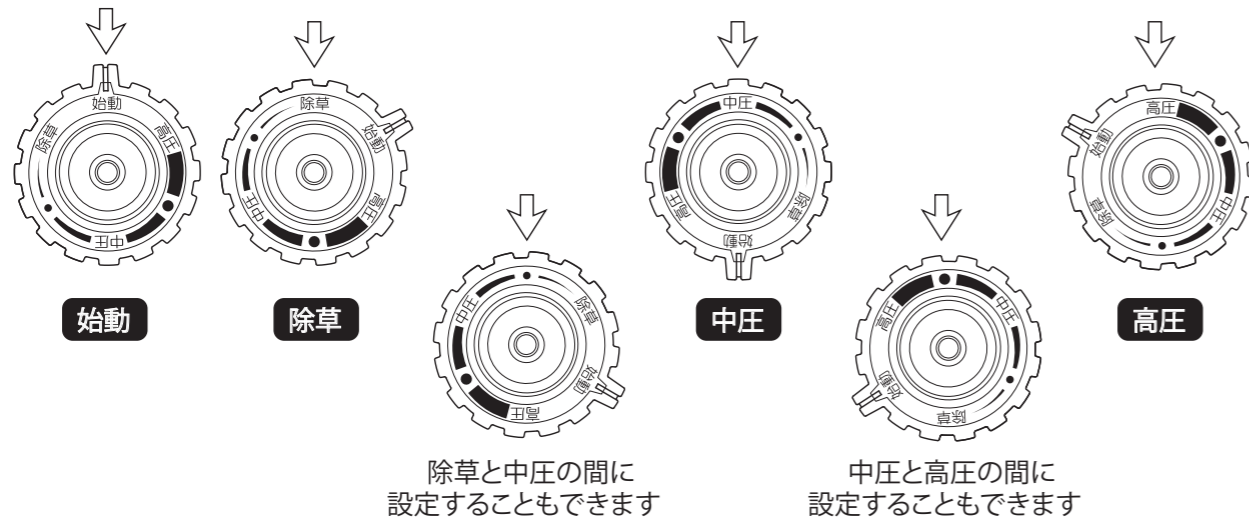
2. ボールコックを「開」にし、噴口から吐出することを確認します。

注意 ボールコックを開けて、噴霧の状態にします。噴霧しないとホース内の空気が抜けにくく吸水しないことがあります。



3. 機械の異常の有無を確認のうえ、調圧ハンドルを回して、「除草」「噴霧」「高圧」と作業条件にあった圧力の設定をします。
※除草噴口使用の際は、調圧ハンドルは必ず「除草」の位置で作業してください。

調圧ハンドル位置



注意 噴霧作業時は、スロットルを高速または高速から若干戻した位置で使用してください。本機のエンジンとポンプの間には遠心クラッチが内蔵されており、低～中速回転では回転不足となりクラッチの滑りにより故障の原因となるためです。

注意 エンジンを低速(アイドリング)で5分以上運転させないでください。エンジン、クラッチの故障の原因となります。5分以上放置されるときは、必ずエンジンを停止させてください。

4 噴口の調節 ※縦型二頭口噴口は調整できません。

カバー付泡状除草噴口(ES-10PDX/15PDX/20PDX) 泡状除草噴口(ES-10Pのみ)
噴口が回転するので、角度を調整できます。噴口が回転するので、角度を調整できます。
 左右180°の範囲で調整してください。 左右180°の範囲で調整してください。



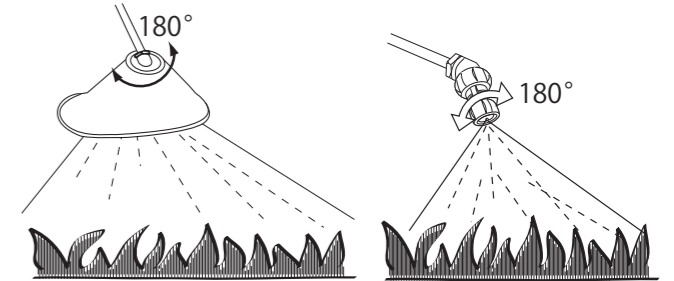
注意 (カバー付)泡状除草噴口使用時は、調圧ハンドルは「除草」の位置に合わせて使用してください。

5 散布の仕方

○ 除草噴口を回し噴霧面を回転できます。

ポイント

雨の降りそうな日を避けて散布します。薬剤を植物に長時間付着させることで除草効果が上がります。

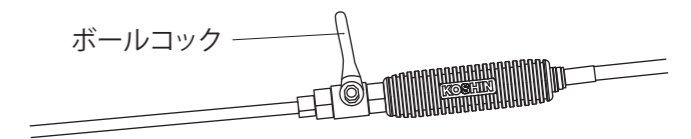


注意 噴霧中は噴口を回転させないでください。

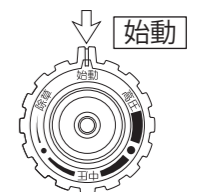
注意 噴口の調整はネジになっていますので、あまり緩めすぎると、液漏れまたは脱落しますので注意してください。逆に締めすぎるとネジが破損し液漏れの原因となります。

6 停止

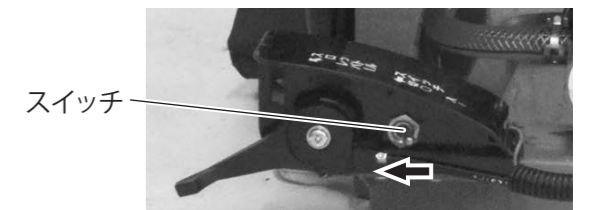
1. ボールコックを閉じて締め切り状態にし、噴霧を停止します。



2. 調圧ハンドルを始動の位置にし、スロットルレバーを低速に戻します。



3. スイッチを「切」にしてエンジンを停止します。

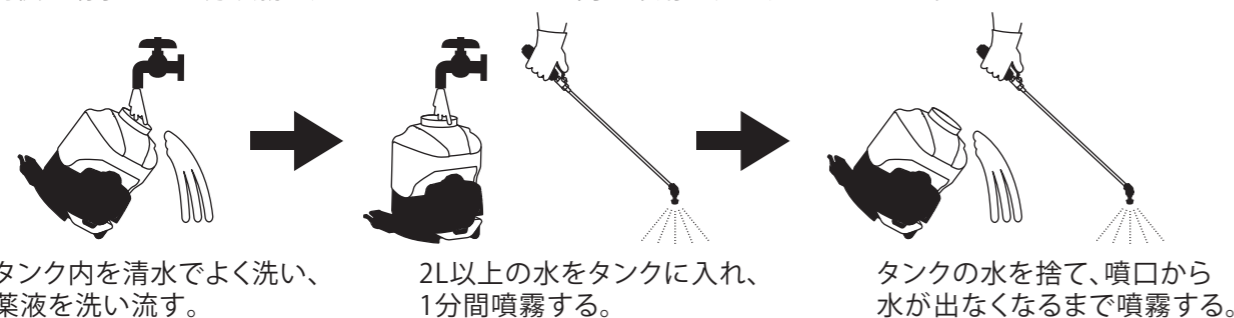


4. ボールコックを開け、ホース内の圧力が抜けていることを確認します。

注意 火傷防止のため、運転中及び停止直後はエンジンの高温部にはさわらないでください。

使用後の注意

1. 使用後は清水を2~3分噴霧し、ポンプ・ホース・ノズル内の薬剤を洗い流してください。



注意 使用後は、タンク内に薬剤を入れたままにしないでください。薬剤がポンプやノズル内に残っていると薬剤が固まったり、またパッキン等が劣化するなどして、ポンプ故障の原因となります。

2. 洗い流しが終わったら、スイッチを「切」にする前にタンクの中を空にし、調圧ハンドルを「始動」の位置に戻してください。ポンプ・ホース内の液が抜け、ノズルから液が出なくなればスイッチを「切」にしてください。

注意 調整ハンドルを「始動」の位置にしないと、次回使用時に圧力の切替が正常に行えなくなります。

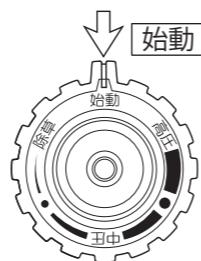
注意 凍結のおそれがある場合は、水を通して洗浄した後、不凍液を通してください。また、ポンプやノズル内に液が残らないようにしてください。(不凍液の取扱説明書をご確認のうえ、正しくお使いください。)

注意 ノズルから液が出なくなれば直ちにスイッチを「切」にしてください。空運転を継続するとポンプの故障の原因となります。

3. 燃料タンクの燃料を抜き、下記を参考にアイドリングでエンジン内に残った燃料を使い切ってください。

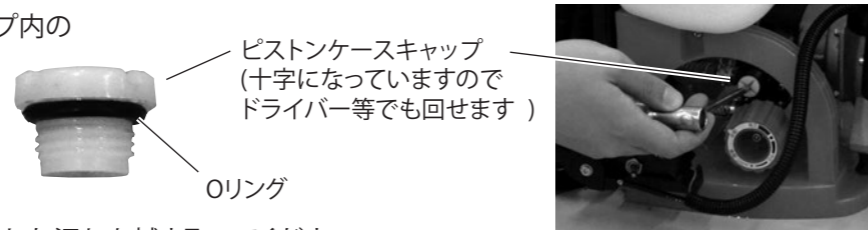
<燃料を使い切る方法>

- ① 調圧ハンドルを「始動」位置に合わせエンジンを始動する。
- ② スロットルを低速に合わせる。
- ③ 自然に止まるまで運転する。
- ④ プライミングポンプを数回押す。
- ⑤ チョークを「閉」にしてリコイルスターターを引き、エンジンがかからない事を確認する。エンジンがかかる場合は④⑤をくり返す。



注意 特に長期間(30日以上)保管する場合は、エンジン内に燃料が残っていると、燃料の目詰まりや部品の早期劣化を引き起こす原因となります。

4. ピストンケースキャップを外しポンプ内の水を排出してください。(凍結によるポンプ破損防止)



5. エンジン・ポンプ・ノズルなどに付着した汚れを拭き取ってください。水分が残っているとエンジンが錆びたり、故障の原因となります。保管時はポンプやノズルをよく乾燥させた後、直射日光の当たらない場所に収納してください。

注意 直射日光が長期間当たり続けるとホース等の樹脂部分が早期劣化し、思わぬ事故の原因となります。

注意 凍結の恐れがある場合は本機を毛布等に包み、地面よりできるだけ離して保管してください。

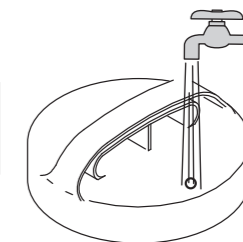
保守・点検

1 ブリーザーの洗浄

- タンクキャップの空気穴に、泥や汚れが付着したら、水で洗い流してください。

注意 ブリーザー穴が詰まると散布時にタンクが“へこみ”破損する恐れがあります。

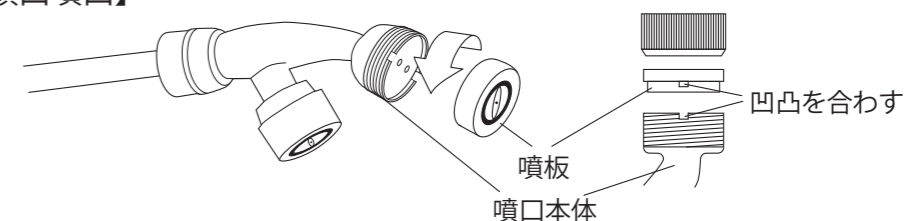
- 製品を横に傾けたりすると、タンクキャップの空気穴から液が漏れることがありますが、故障ではありません。



2 噴口の洗浄

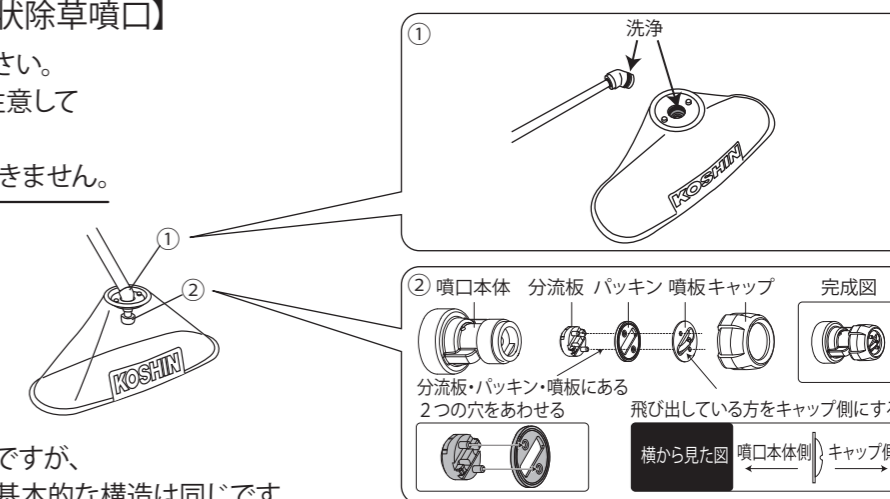
霧状散布【縦型二頭口噴口】

- 噴口を右図のように外し、水洗してください。



泡状散布【(カバー付)泡状除草噴口】

- ①及び②の2カ所を洗浄してください。組み立てる時は、順番と向きに注意して組み立ててください。順番・向きが違とうまく噴霧できません。



※図はカバー付き泡状除草噴口ですが、カバーの無い泡状除草噴口も基本的な構造は同じです。

要点 分解の際はパッキンなど噴口内の各部品を無くさないように注意してください。

3 エンジンの点検

エンジンは下記の定期点検表に基づき点検を行ってください。

●エンジンの定期点検表

| 点検整備項目 | 点検時期 | 作業前 点検 | 3ヶ月毎 または 50時間運転毎 | 6ヶ月毎 または 100時間運転毎 | 1年経過毎 |
|----------------------|-------|-----------|------------------------|-------------------------|-------|
| | | | | | |
| 各部ネジ、ナット類の緩み点検 | 点検 | ● | | | |
| 燃料配管部の点検、交換 | 点検 | ● | | | |
| | 交換 | | | | ●※1 |
| エアクリーナーの点検、清掃、交換 | 点検・清掃 | ● | | | |
| | 交換 | | | ●※2 | |
| 冷却取入口、冷却フィン、マフラ周辺の清掃 | 点検・清掃 | ● | | | |
| 点火プラグの点検、清掃 | 点検・清掃 | | ● | | |
| 燃料フィルターの点検、清掃 | 点検・清掃 | | ● | | |
| マフラ点検、清掃、交換 | 点検・清掃 | | ● | | |
| | 交換 | | | | ●※1 |

※1 これらの項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご相談ください。お問い合わせください。エンジンをいつまでも安全で快適に使用していただくために、部品交換を推奨いたします。

※2 エアクリーナーの交換は、エレメントのみ交換をおこなってください。

○点検時期は表示の期間毎または運転時間毎のどちらか早いほうで実施してください。

○表示時間を経過後すみやかに実施してください。

故障と処置

| 症状 | 考えられる原因 | 処置 | |
|----------------------|--------------------|--|--|
| リコイルスターターが引けない、または重い | 問題のある燃料使用によるエンジン不調 | 正しい燃料に入れ替え改善が行われない場合、修理 | |
| | エンジン内のサビ付き | お客様では修理困難ですので、本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご相談ください。 | |
| | エンジンの焼付き | | |
| | リコイルスターターの不具合 | | |
| | シリンダー内への異物混入 | | |
| エンジンが始動しない | 問題のある燃料使用によるエンジン不調 | 正しい燃料に入れ替え改善が行われない場合、修理 | |
| | キャブレターが詰まっている | お客様では修理困難ですので、本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご相談ください。 | |
| | 点火プラグのかぶり、汚れ、破損 | プラグ点検・交換⇒ 処置B (20ページ) 参照 | |
| | エアクリーナーの汚れ | エアクリーナーの洗浄⇒ 処置C (21ページ) 参照 | |
| | チョークの調整 | 夏期・エンジンが温まっている時、チョークを『開』にする (13ページ参照) | |
| | | 冬季・エンジンが冷えている時、チョークを『閉』にする (13ページ参照) | |

| 症状 | 考えられる原因 | 処置 |
|---|-----------------------|--|
| エンジンが数分動いた後止まる | 点火プラグまたはイグニッションコイルの劣化 | 点火プラグの点検・交換 ⇒ 処置B (20ページ)、イグニッションコイルの交換 (修理依頼) |
| | キャブレターが詰まっている | お客様では修理困難ですので、本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご相談ください。 |
| | 製品を傾けた状態で置いている | 水平な所に設置する |
| | 屋内で使用または、シートなどが被っている | 屋外で使用するもしくは、シートなどは被せない |
| | 燃料が古い | 新しい燃料を使用する |
| | 問題のある燃料使用によるエンジン不調 | 正しい燃料に入れ替え改善が行われない場合、修理 |
| | 吸水しない | 吐出ホースの詰まり |
| 吐出ホース内に圧力が残っている | | 調圧ハンドルを「始動」位置にし、圧力を抜く |
| 噴口穴の詰まり | | 噴口を水洗いする (「保守・点検」(17ページ) 参照) |
| 吸入ホースの接続部のゆるみ | | 板クリップで充分締め付ける |
| クラッチの動作不良 | | お客様では修理困難ですので、本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご相談ください。 |
| 吐出弁や吸入弁のゴミ詰まり、消耗部品 (シリンダパイプ、ピストンロッド、パッキン、圧力調整スプリング等) の摩耗、破損 | | |
| エンジン低速での運転 | | 高速にする |
| 始動時に調圧ハンドルが「始動」位置以外になっている | | 調圧ハンドルを「始動」位置にしてから始動する (「使用方法」(14ページ) 参照) |
| エンジンを始動させた直後である | | 約1分～1分30秒運転させる |
| 吸水弁の固着 | | 棒で吸水弁を軽く押す (処置 A (20ページ) 参照) |
| 吸水するが噴霧しない | | 吐出ホースの詰まり |
| | エンジンの出力低下 | 点検・修理 |
| | ホースや接続部の漏水 | 漏れ止めをする |
| | 噴口穴の詰まり | 噴口を水洗いする (「保守・点検」(17ページ) 参照) |
| 噴霧量が少ない 噴霧状態が悪い 圧力が上がらない | 噴口穴の詰まり、摩耗 | 噴口の清掃、交換 |
| | 調圧ハンドルが「始動」にセットされている | 調圧ハンドルを「除草」「中圧」「高圧」位置に合わせる |
| | クラッチの動作不良 | お客様では修理困難ですので、本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご相談ください。 |
| | 消耗部品の磨耗 | |
| タンクがへこむ | タンクキャップブリーザーのつまり | 清掃する (17ページ参照) |
| マフラーから白煙が出る またはオイル垂れが多い | 25:1など指定以外の混合ガソリンを使用 | 指定の混合ガソリンを使用 (11ページ参照) |
| | 長時間の低速運転を断続的に行っている | 高速で使用する |
| 霧状にならない | 縦型二頭口噴口のつまり | 噴口の清掃 (17ページ参照) |
| | (カバー付き) 泡状除草噴口を使用している | 縦型二頭口噴口を使用する |
| 液が止まらない | ボールコックのゴミつまり | 清掃する |
| | ボールコックの破損 | ボールコックを交換する |

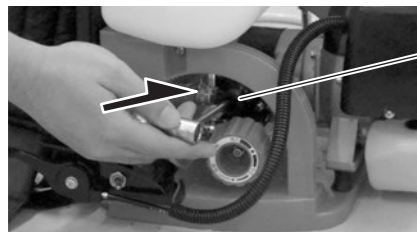
お客様自身が点検・整備作業についてあまり熟知されていない場合は、本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご相談ください。

下記の処置を行う前に必ず確認してください。

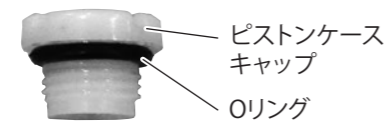
- 注意** やけどのおそれあり。運転直後のエンジンやマフラーは高温になっていますので点検・整備は必ず冷えてから行ってください。
- 注意** 感電の恐れあり。必ずエンジンのスイッチを「切」にしてください。
- 注意** ご自分で取扱説明書記載以外の分解・修理は、絶対にしないでください。

ピストン部品・オイルシール・パッキン類・Oリング類・スプリング類・吐出ホースは消耗品ですので、保証期間内でも有償修理となります。交換の目安は100時間ですが、薬剤の種類により寿命が短くなる事があります。

処置A <噴吸水弁固着解除方法>



ピストンケースキャップを外し吸入口より棒(ドライバー等)を差して中の弁を数回軽く押ししてください。(約3mm弁が動くと正常です。)



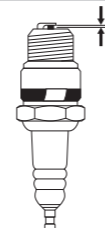
注意 強く突くと破損しますのでご注意ください。

処置B

プラグがぬれたり、汚れたりしていませんか？
ぬれているときや汚れているときは布きれなどで拭いてください。



プラグのすき間は正しいですか？
プラグすき間は0.6~0.7mmです。
正しくないときは調整してください。

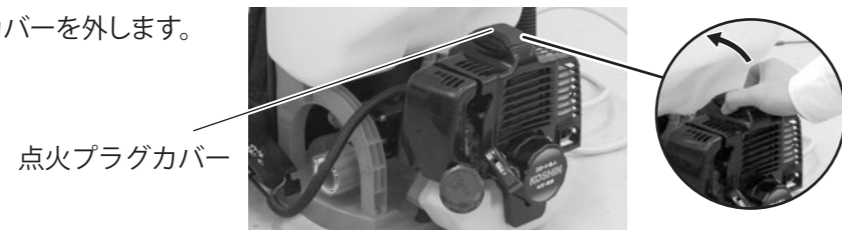


点火プラグの清掃や、すき間調整をしてもエンジンがかからない場合は、新しいプラグに交換してください。

<点火プラグの交換方法>

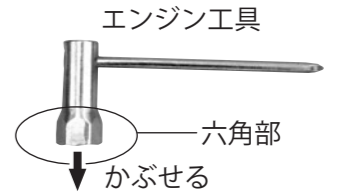
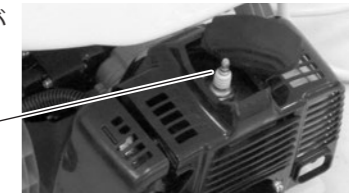
注意 故障の原因となるため指定以外の点火プラグは使用しないでください。

1. エンジンが冷えていること、エンジンスイッチがOFFであることを確認してください。
2. 点火プラグカバーを外します。

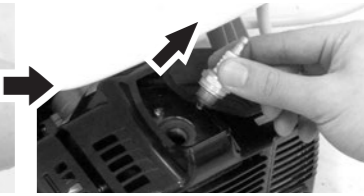
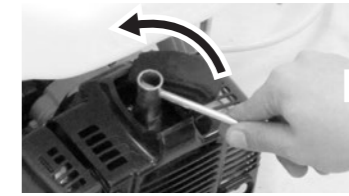


3. 点火プラグに、付属のエンジン工具を六角部がぴったりはまるようにかぶせます。

点火プラグ



4. 反時計回りに回し、点火プラグをゆるめます。ゆるんだら手で回して取り外してください。



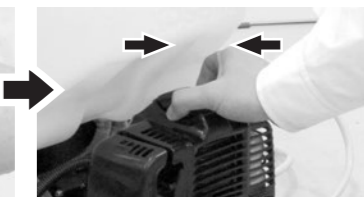
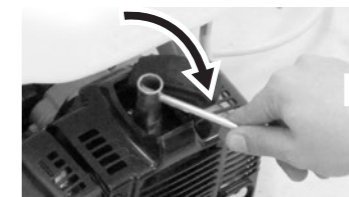
注意 点火プラグを外すとき、最初は強い力が必要です。ケガをしたり、製品を倒さないよう注意してください。

5. 新しい点火プラグを用意し、手でまっすぐ慎重にねじ込んでください。



注意 最初からエンジン工具を使用してねじ込まないでください。まっすぐねじ込むのがむずかしくなり、エンジン内部を傷つける恐れがあります。

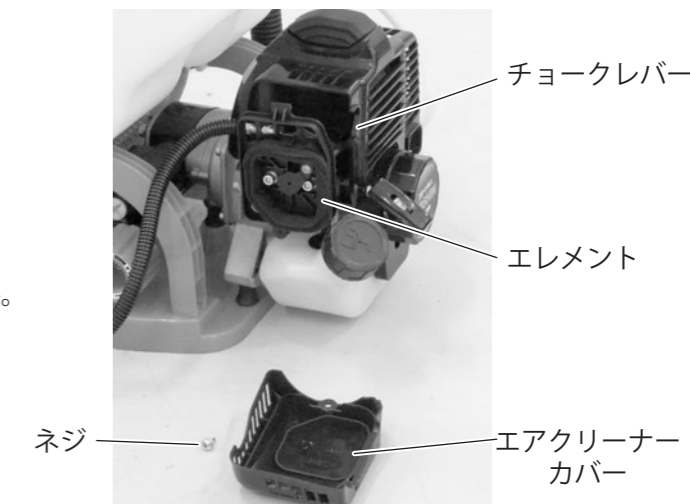
6. エンジン工具でしっかりとしめつけ、点火プラグカバーをしめてください。この時指で強くはさむようにして、キャップをしっかり押しこんでください。



注意 キャップがしっかりとハマっていないとエンジン内部に水等が入り、故障の原因となります。

処置C

1. エンジンのスイッチを「切」にします。
2. チョークレバーを上側(閉)にして、キャブレターに異物や埃が入るのを防ぎます。
3. ネジを取り外し、エアクリーナーカバーを取り外し、エレメントを取り外します。
4. エレメントを白灯油で洗浄後、エンジンオイルに浸し片手で固く絞ってください。
5. エレメント及びエアクリーナーカバーを元通り取り付け、ネジを取り付けてください。



危険 火気厳禁

パーツのご注文は

パーツは、必ず指定のものをご使用ください。

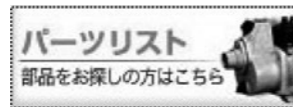
パーツは購入店または弊社製品お取扱店を通じてご注文いただけます。また、下記に記載の無いものも併せて、弊社公式Webサイトにてパーツ表、価格をご覧いただけます

ご注文時のお願い

部品番号(7~9桁)または機種名・JAN、名称、必要な個数を正しくお伝えください。

パーツ表・価格

- 1) <http://www.koshin-ltd.co.jp>
- 2) トップページ「パーツリスト」バナーをクリック










- 3) エンジンパーツリストをご覧の場合は、2)のあとさらに「エンジンパーツリスト」バナーをクリック



主なパーツ

どの機種にどのパーツが標準付属しているかは、6ページでご確認ください。

| 名 称 | 機種名・JAN | 備 考 |
|----------------------------------|----------------------------------|---|
| カバー付泡状除草噴口 クミ(エンジン用) | 機種名:PA-303 JAN:4971770-108103 |  <ul style="list-style-type: none"> ・カバーを使用して除草されたい場合に使えます |
| 泡状除草噴口クミ (エンジン用) | 機種名:PA-284 JAN:4971770-107793 |  |
| 小型鉄砲ノズル | 機種名:NZ-870 JAN:4971770-450677 |  <ul style="list-style-type: none"> ・広範囲の消毒に便利です <p>直射・噴霧調整可能 ノズル長87cm ネジ径G 1/4</p>  <p>直射 4m 使用可能 直射イメージ</p> |
| 長七頭口噴口 (換板式) | 機種名:DP-103 JAN:4971770-103054 |  <ul style="list-style-type: none"> ・広範囲の消毒に便利です <p>ノズル長80cm ネジ径G 1/4</p> |
| 除草五頭口噴口 (動力用) (ラウンド25LB-5) | 機種名:DP-016 JAN:4971770-100756 |  <ul style="list-style-type: none"> ・広範囲の除草時に便利です(泡状除草) <p>ノズル長100cm ネジ径G 1/4</p> |
| ESシリーズ 専用キャリー | 機種名:ESC-1 JAN:4971770-452404 |  <p>タンク背負い台</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重いタンクを置いて使えます ホースφ6×20m付 タイヤ幅変更可能 広幅:43cm 狭幅:20cm <p>対応機種 ES-10P、ES-10PDX、ES-15PDX、ES-20PDX* *タンク背負い台は使用不可</p> |

よくある質問と回答

Q: 混合比25:1など、違う比率の混合ガソリンは使用できますか?

A: できません。50:1の物をご使用ください。エンジン故障の原因となります。

Q: 25:1の混合ガソリンにガソリンを足して50:1にして使用してもいいですか?

A: エンジンオイルは25:1用と50:1用で種類が違うため混ぜて使うことはできません。

Q: FB級など指定外の混合ガソリン、エンジンオイルは使用できますか?

A: できません。FC級以上の物をご使用ください。エンジンが焼き付き、故障の原因となります。指定外のオイルを使用したことによるエンジンの焼き付きは保証の対象外です。

Q: 4サイクル用エンジンオイルは使用できますか?

A: できません。エンジン故障の原因となります。

Q: 噴口、ノズルパイプのネジ径は?

A: G 1/4です。

Q: 高い所まで飛ばしたい。

A: 別途オプションで小型鉄砲ノズルをお求め頂ければ直射で約4m飛ばすことができます。
(「小型鉄砲ノズル」22ページ参照)



・燃料は自然劣化するため、製品に入れたまま長時間経つと、エンジンに悪影響をおよぼすおそれがあります。「エンジンの定期点検表(18ページ)」を参考に、燃料を抜くなどメンテナンスをすることで製品を末永くご使用頂けます。

・燃料及びエンジンオイルは冷暗所に保管してください。寒暖差の大きい場所では結露が発生・オイルに混入し、エンジン不調の原因となります。